

## 感染対策ラウンドの効果

ICT

○有瀬 和美 武内 世生

高知大学医学部附属病院感染対策チーム（Infection control team：ICT）は、2004年に設置され、2005年から毎週1回の院内ラウンドを継続している。その結果、手指衛生遵守率の上昇、速乾性手指消毒薬使用量の増加とともに、MRSA 検出数は減少した。また、ラウンド結果を感染対策ラウンドニュースとして全部署に発行することによって、病院内環境の改善がみられている。

手指衛生遵守率の向上をめざして、2005年から週に1回臨床現場を訪問し、手指衛生の遵守状況を確認し始めた。方法は、ICTメンバーによる約30分間の目視観察とその場での教育である。併せて、リンクナースが自部署の速乾性手指消毒薬の使用量を計測した。結果は自部署の経時的変化や、他部署との比較としてまとめ、グラフ化して目に見えるかたちで毎月報告した。5年間継続し、手洗い遵守率は49.7%から51.48%に、速乾性手指消毒薬使用量は、1000入院患者あたり8.01Lから11.49Lに上昇した。その結果、MRSAの1000入院患者あたりの検出数は2005年度2.41から2010年度1.87に、新規院内発生数は、0.84から0.59に減少した。

2010年からは、週1回のラウンドの目的を、①現場での感染対策の実施状況を確認する、②環境整備を推進する、として一部署に月2回訪問している。結果は病院全体での情報共有を趣旨とし、よかったことと改善が必要なことを感染対策ラウンドニュースとして毎月全部署に発行している。その効果として、蓄尿数が減少し、病室から蓄尿容器が撤去され、シンクの周囲に物品がなくなるなど、感染のリスクとなりやすい環境対策がすすんでいる。

感染対策は、すべての医療従事者が行うものであり、日ごろから、職員と良好なコミュニケーションを維持しておくのが重要である事は言うまでもない。そのため毎週のラウンドの際にはスタッフに声をかけて、その場でディスカッションをするようにしている。現場でともに考えることは、効果的な教育に繋がると考えている。

〔平成23年8月21日 第9回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会（高知）にて発表〕